

特別インタビュー

山崎製パン中央研究所

# 山田雄司所長



山田雄司氏 山崎製パン 中央研究所 執行役員所長

昭和52年に山崎製パン千葉工場に入社。菓子パン部門に3年間に在籍後、台湾ヤマザキを経て昭和56年5月研究所に赴任。途中、小麦の研究・理解のためカナダの穀物研究所に2年在籍し小麦の知識を深める。平成17年に所長に就任、現在に至る。

中央研究所の活動とは、品質向上のために、技術的なノウハウをシエイクアップしていく作業が重要

山崎製パンは、昭和23年の創業から今年で66年目を迎える。全国のパン用小麦粉使用量3割以上、パン業界のトップに君臨し続ける同社の技術分野の中核を担うのが、東京都墨田区にある中央研究所である。使用原料や製造工程について、科学的に明快な根拠を見つけだすための基礎研究の充実を図るとともに、科学的なアプローチから新製品の開発、既存製品の改良に取り組む。製品の質を支えている研究所の活動内容、および最近のパン事情について、所長の山田雄司氏にインタビューした。